

報 道 発 表



平成 21 年 12 月 25 日

科学技術政策研究所

科学技術への顕著な貢献 2009 (ナイスステップな研究者)

科学技術政策研究所（所長 和田智明）では、科学技術の振興・普及において顕著な貢献をされた 10 組 12 名の方々を「ナイスステップな研究者」として選定しました。

科学技術政策研究所では、2005 年より、科学技術への顕著な貢献をされた方々「ナイスステップな研究者」を選定しております。2009 年は、科学技術政策研究所の調査研究活動及び科学技術政策研究所の専門家ネットワーク（約 2,000 人）の意見を参考に、科学技術分野においてここ数年間になされた顕著な業績の中から、特に科学技術政策上注目すべき方々を選びました。これらの方々の活躍は科学技術に対する夢を国民に与えてくれるものでもあり、ここに広くお知らせいたします。

<お問い合わせ>

科学技術政策研究所 企画課

TEL : 03-3581-2466

FAX : 03-3503-3996

E-mail : office@nistep.go.jp

ホームページ : <http://www.nistep.go.jp>

【研究部門】

○^{たなか}田中 ^{けいじ}啓二 東京都臨床医学総合研究所 所長代行

細胞内の不要タンパク質を分解するプロテアソームに関する研究で世界的に注目を集める

○^{あまの}天野 ^{ひろし}浩 名城大学理工学部材料機能工学科 教授

青色 LED 用半導体の誕生から紫外発光半導体までの最先端の研究をリード

○^{こいけ}小池 ^{やすひろ}康博 慶応義塾大学理工学部 教授

高速通信用プラスチック光ファイバーの研究および実用化

○渡邊^{わたなべ} 信^{まこと} 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授
炭化水素産生緑藻類による次世代エネルギー資源開発の基盤技術を確立

○原田^{はらだ} 広史^{ひろし} 物質・材料研究機構 超耐熱材料センター長
ロールス・ロイス航空宇宙材料センター長
次世代超合金の開発および実用化推進

○柴田^{しばた} 一成^{かずなり} 京都大学大学院理学研究科附属天文台 台長
京都大学宇宙総合学研ユニット ユニット長
宇宙天気予報の基礎研究としての太陽活動現象の究明に貢献

【プロジェクト・産学連携・国際研究交流部門】

○兼松^{かねまつ} 泰男^{やすお} 大阪大学先端科学イノベーションセンター 教授
大学を核としたイノベーションコアの形成による研究成果の活用と若手人材の活躍の場の創出

○江上^{えがみ} 美芽^{みめ} 東京女子医科大学先端生命医科学研究所 客員教授
再生医療研究の治療実現に向けた「プロデューサー」活動の実践

○HTV プロジェクトチーム 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 有人宇宙環境利用ミッション本部
虎野^{とらの} 吉彦^{よしひこ} プロジェクトマネージャー(「吉彦」の「ヨシ」は、「土」に「口」)
小鍵^{こやり} 幸雄^{ゆきお} サブマネージャー
佐々木^{ささき} 宏^{ひろし} ファンクションマネージャー
高度な安全性・信頼性を満足する宇宙ステーション補給機(HTV)の技術実証

【男女共同参画部門】

○有賀^{ありが} 早苗^{さなえ} 北海道大学 副理事・女性研究者支援室長
北海道大学大学院農学研究院/生命科学院環境分子生物科学研究室 教授
女性研究者活躍に向けた環境整備と女性研究者採用の促進

(参考資料)

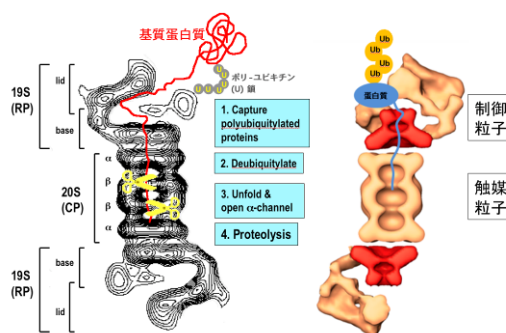
○^{たなか}田中 ^{けいじ}啓二 (60 歳) 東京都臨床医学総合研究所 所長代行

細胞内の不要タンパク質を分解するプロテアソームに関する研究で世界的に注目を集める

細胞の中では多くのタンパク質が合成され、生命活動を維持していますが、一方で不要になったタンパク質や異常なタンパク質を分解し、除去する仕組みが存在します。いずれも生命活動においては最も基本的かつ普遍的なメカニズムと言えますが、田中啓二氏はこのタンパク質分解で中心的な役割を演ずる、プロテアソームという巨大な分子集合体を発見し、その構造や機能、構成分子や組み立ての機構等に関して、世界をリードする研究成果を継続して報告されています。近年ではプロテアソームの阻害剤が抗がん剤として注目を集めており、疾患の治療薬のターゲットとしても期待が持たれていますが、田中氏の業績はこのような動きに対しても重要な知見を提供しています。



プロテアソームの構造と機能



<個別取材などのお問合せ先>

^{たなか}田中 ^{けいじ}啓二

東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所

TEL : 03-5316-3337

FAX : 03-5316-3198

E-mail : tanaka-kj@igakuken.or.jp

経歴

生年月日 1949 年 4 月 10 日（60 歳）

略 歴

1976 年 徳島大学大学院医学研究科博士課程中退
1976 年 徳島大学酵素研究施設（昭和 62 年酵素科学研究センターに改組）・助手
1981 年 米国ハーバード大学医学部生理学部門（A. L. Goldberg 教授）に留学
1995 年 徳島大学酵素科学研究センター・助教授
1996 年 東京都臨床医学総合研究所・化学療法部門・部長
1999 年 東京都臨床医学総合研究所・分子腫瘍学研究部門（改組）部長
2002 年 東京都臨床医学総合研究所・副所長（分子腫瘍学研究部門 部長事務取扱）
2006 年 東京都臨床医学総合研究所・所長代行（先端研究センター・センター長兼任）

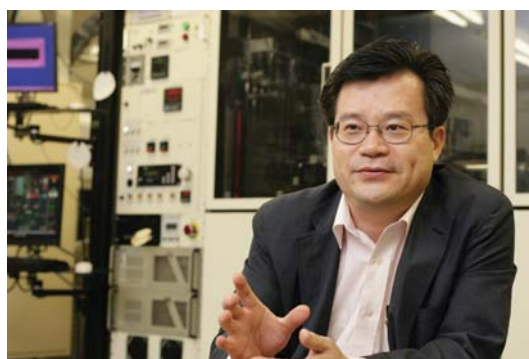
主な受賞歴

日本生化学会奨励賞（1988 年）
内藤記念科学振興賞（2003 年）
上原賞（2004 年）
朝日賞（2004 年）
東京スピリット賞（2005 年）
東レ科学技術賞（2007 年）
武田医学賞（2009 年）

あまの ひろし
○天野 浩（49 歳） 名城大学理工学部材料機能工学科 教授

青色 LED 用半導体の誕生から紫外発光半導体までの最先端の研究をリード

天野教授は、まだ青色 LED が夢といわれていた 1980 年代に、名古屋大学の指導教官であった赤崎勇教授（現 名城大学特任教授）と低温バッファ層を利用した高品質の青色 LED 用半導体結晶を成長する方法を開発し、その後マグネシウムをドーピングした結晶を後処理で p 型化するという画期的な技術を開発しました。これらの方法を用いて青色 LED が実現され、その後、研究・開発は、青色 LED の実用化と相俟って日本から世界へと急速に広がり、大きな学術領域へと発展しました。また、産業分野でも省エネルギーの核になる技術と期待されています。青色 LED 用半導体を誕生させた天野教授は、現在はさらに波長の短い紫外線発光素子を含めて、基礎から応用まで幅広く世界の研究をリードしています。



＜個別取材などのお問合せ先＞

あまの ひろし
天野 浩

名城大学理工学部材料機能工学科

TEL : 052-838-2293（ダイヤルイン）

FAX : 052-832-1298

E-mail : amano@ccmfs.meijo-u.ac.jp

経歴

生年月日 1960 年 9 月 11 日 (49 歳)

略 歴

1983 年 名古屋大学工学部電子工学科卒業
1988 年 名古屋大学大学院博士課程終了
1988 年 名古屋大学助手
1989 年 名古屋大学、工学博士学位取得
1992 年 名城大学理工学部講師
1998 年 名城大学助教授
2002 年 名城大学教授

主な受賞歴

電気学会論文発表賞 (1991 年)
オプトエレクトロニクス会議特別賞 (1994 年)
米国 IEEE/LEOS エンジニアリングアチーブメント賞 (1996 年)
応用物理学会賞 C (会誌賞) (1998 年)
英国ランク賞 (1998 年)
丸文学術賞 (2001 年)
武田賞 (2002 年)
SSDM Award (2003 年)
日本結晶成長学会論文賞 (2008 年)
応用物理学会フェロー (2009 年)

こいけ やすひろ
○小池 康博 (55 歳) 慶応義塾大学理工学部 教授

高速通信用プラスチック光ファイバーの研究および実用化

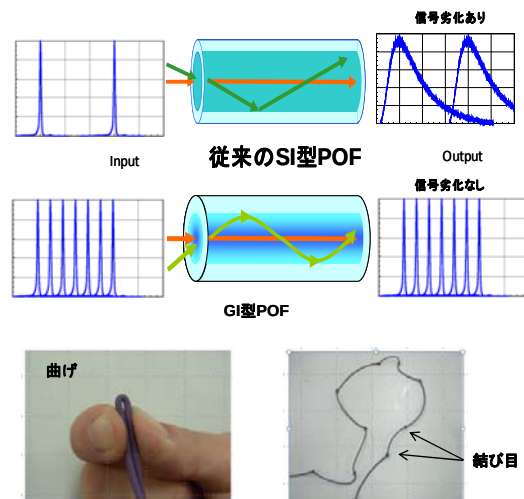
光ファイバーは、現在の情報通信社会を築く上で極めて重要な役割を果たしています。今年度のノーベル賞の対象となったグラスファイバーは、大陸間などのインターネットやオフィス街、住宅街などの幹線に適しています。

小池教授が世界に先駆け発明、提案したのは、低損失・高速プラスチック光ファイバーです。従来より 200 倍以上の高速伝送を可能としました。これは、プラスチック光ファイバーが高速通信に使用可能であることを実証した世界初の報告となりました。プラスチックは、曲げに強く、安全で、ビル内、家庭内のような狭い場所への配線に大変適しています。現在、旭硝子株式会社と共同開発を進め、伝送速度が 40 ギガビットを越える全フッ素化プラスチック光ファイバーの試作に成功しており、従来にはない、臨場感溢れる Face-to-Face コミュニケーションへ向けての研究開発が精力的に行われています。

小池教授はノートパソコンに搭載されている高輝度光散乱導光ポリマー、ゼロ複屈折ポリマーの発明者としても、世界的に高い評価を受けています。



世界最速プラスチック光ファイバーの開発



<個別取材などのお問合せ先>

こいけ やすひろ
小池 康博

慶応義塾大学理工学部

TEL : 044-580-1596

FAX : 044-580-1433

E-mail : koike@appi.keio.ac.jp

経歴

生年月日 1954 年 4 月 7 日 (55 歳)

略 歴

1982 年 慶応義塾大学大学院工学研究科博士課程修了

1989～90 年 米国ベル研究所 研究員

1992 年 慶応義塾大学 理工学部助教授

1994 年～プラスチック光ファイバーコンソーシアム会長

1997 年 慶応義塾大学 理工学部教授

2000 年～現在 旧 科学技術振興事業団 戦略的創造研究推進事業 ERATO 小池
フォトニクスポリマープロジェクトを経て、(独)科学技術振興
機構戦略的創造研究推進事業発展研究 ERATO-SORST「小池フォト
ニクスポリマープロジェクト」へ継続

2003 年～2004 年 3 月東北大学客員教授

2007 年～Honorary Doctorate of Eindhoven University of Technology

2009 年～Affiliate Professor, University of Washington

主な受賞歴

光科学技術研究振興財団賞 (1992 年)

SPE 国際賞 (Fred O. Conley 賞) (1994 年)

日経 BP 技術賞 (1995 年)

光産業技術振興協会櫻井健二郎記念賞 (1996 年)

繊維学会賞 (2000 年)

第 42 回藤原賞 (2001 年)

2002 年度高分子学会賞 (2003 年)

紫綬褒章 (2006 年)

その他多数

わたなべ まこと
○渡邊 信 (61 歳) 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授
炭化水素産生緑藻類による次世代エネルギー資源開発の基盤技術を確立



微細藻類は陸上植物と同様に光合成を行い、オイルを産生する種を数多く含んでおり、そのオイル生産効率は油脂植物と比べて非常に高いことが知られています。渡邊教授は、高質の石油系オイルである炭化水素を産生する緑藻類ボトリオコッカスについて炭化水素の産生量と増殖に優れた高アルカリ性培養株を開発し、最大の難点であった弱光下でも最大の増殖とオイル生産をおこなう条件を明らかにしました。また、全生産プロセスのエネルギー収支と経済性評価をおこない、ボトリオコッカスは将来の石油代替資源として極めて有望であることを明らかにしました。これらの成果は、学術分野のみならず社会的にも高い評価をうけ、欧米にやや遅れをとっていた日本の研究レベルを向上させ、2020 年までに温室効果ガス 25%削減という目標の達成に大きく貢献していくものです。



ボトリオコッカス（左上：矢印がオイル）、その屋内培養（右上下）と屋外培養（左下）

経歴

生年月日 1948 年 3 月 5 日 (61 歳)

略 歴

1971 年 東北大学理学部生物学科 卒業
1977 年 北海道大学大学院理学研究科博士課程修了・理学博士
1978 年 富山大学薬学部助手
1978 年 国立公害研究所水質土壌環境部研究員
1983 年 同 主任研究員
1989 年 同 主任研究官 (地球規模海洋汚染担当)
1990 年 国立環境研究所生物圏環境部環境微生物研究室長
1997 年 国立環境研究所生物圏環境部長
2001 年 内閣府総合科学技術会議参事官併任 (環境・エネルギー担当)
2001 年 独立行政法人国立環境研究所生物圏環境研究領域長
2005 年 独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー併任
2006 年 筑波大学大学院生命環境科学研究科教授
2007 年 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員併任

主な受賞歴

国際藻類学会パーペンス賞 (1991 年)
ICCC-10 ベストポスター賞 (2004 年)
APPF ベストポスター賞 (2005 年)
日本微生物資源学会学会賞 (2007 年)
米国苔・地衣学会ツッカーマン賞 (2007 年)

<個別取材などのお問合せ先>

あだち まさる
安達 勝

筑波大学研究推進部研究企画課

TEL : 029-853-2921

FAX : 029-853-6011

E-mail : adachi.masaru.ge@un.tsukuba.ac.jp

はらだ ひろし
○原田 広史 (58 歳) 物質・材料研究機構 超耐熱材料センター長
ロールス・ロイス航空宇宙材料センター長

次世代超合金の開発および実用化推進

原田氏は旧金属材料技術研究所および物質・材料研究機構で超耐熱材料の開発に長年携わり、1,100℃で使用できる第5世代Ni基単結晶超合金の開発に世界で初めて成功するなど、多くの重要な業績をあげられています。また、三菱重工業株式会社と協力して、開発超合金をタービン翼に用いた天然ガス複合発電ガスタービンの実用化を推進しています。ロールス・ロイス社との共同研究では、開発超合金を用いたジェットエンジンが2~3年以内に新型旅客機に搭載される計画になっています。

開発超合金を発電ガスタービンやジェットエンジンに用いることによって、それらの作動温度を向上させて発電効率や推進効率を向上させることができます。そうすることで、燃料使用量の低減が可能になり、CO₂排出削減に大きく貢献すると期待されています。



手にしているのは、開発合金を用いて鋳造した複合発電用単結晶タービン動翼

＜個別取材などのお問合せ先＞

はらだ ひろし
原田 広史

物質・材料研究機構 超耐熱材料センター

TEL : 029-859-2503

FAX : 029-859-2501

E-mail : harada.hiroshi@nims.go.jp

経歴

生年月日 1951 年 1 月 24 日（58 歳）

略 歴

1975 年 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程金属工学専攻修了
1975 年 金属材料技術研究所入所
1983 年 同 エネルギー機器材料研究グループ主任研究官
1989 年 工学博士（早稲田大学論文博士）
1992 年 金属材料技術研究所材料設計研究部第 3 研究室長
1999 年 同 特別研究官
2001 年 物質・材料研究機構 材料研究所構造材料研究センター
耐熱材料研究グループ主幹研究員
2002 年 同 材料研究所超耐熱材料グループディレクター
2006 年より現職
この間、英国ケンブリッジ大学、材料及び金属学科滞在約 3 年（客員研究員）

主な受賞歴

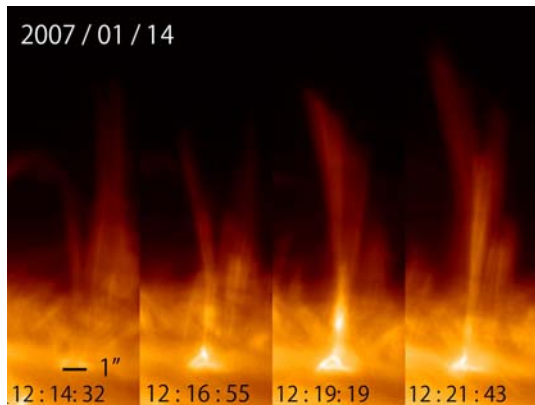
日本鉄鋼協会 俵論文賞（1980 年）
市村賞功績賞学術の部（1989 年）
科学技術庁長官業績表彰（1995 年）
英国材料学会第 3 回パーソンズ記念ガスタービン国際会議最優秀論文賞（1995 年）
日本金属学会 功績賞（1996 年）
岩谷直治記念賞（2001 年）
文部科学大臣賞研究功績者（2001 年）
CBMM 社及び英国材料学会チャールズ・ハッチェットメダル（2005 年）
日本金属学会 谷川・ハリス賞（2009 年）
谷川熱技術振興基金 粉生熱技術振興賞（2009 年）

しばた かずなり
○柴田 一成 (55 歳) 京都大学大学院理学研究科附属天文台 台長、教授
京都大学宇宙総合学研究ユニット ユニット長
宇宙天気予報の基礎研究としての太陽活動現象の究明に貢献

太陽で爆発(フレア)が発生すると、地球周辺はプラズマの激しい嵐に見舞われ、電波障害、送電網の故障、人工衛星の故障、宇宙飛行士の被曝といった被害が発生します。太陽活動に伴う地球周辺環境の変化を予測する宇宙天気予報は、この様な被害の防止のために重要です。柴田教授は、内外の宇宙天気予報の研究に於いて主導的役割を果たしています。

太陽観測衛星「ひので」のデータから、磁気リコネクションという物理過程で発生する小さな爆発(ナノフレア)やジェットが、光球とコロナとの間に在る彩層に普遍的に存在することを解明すると共に、ユビキタス・リコネクションという概念を提唱し、コロナが百万度に加熱されている要因と成り得ることを示しました。

アネモネ型と呼ばれるコロナ内の活動領域でフレアが発生すると、超高速のプラズマが噴出し、地球に大きな磁気嵐を発生させることも発見しました。



<個別取材などのお問合せ先>

しばた かずなり
柴田 一成

京都大学大学院理学研究科附属天文台

TEL : 075-581-1235

FAX : 075-593-9617

携帯 : 090-7092-6126

E-mail : shibata@kwasan.kyoto-u.ac.jp

経歴

生年月日 1954 年 12 月 24 日 (55 歳)

略 歴

1977 年 京都大学理学部卒業
1981 年 京都大学大学院理学研究科博士後期課程宇宙物理学専攻中退
1981 年 愛知教育大学教育学部・助手
1983 年 京都大学理学博士 (論文博士)
1986 年 愛知教育大学教育学部・助教授
1987 年から 1 年間、米国テキサス大学核融合研究所 (IFS) 客員研究員
1991 年 国立天文台太陽物理学研究系・助教授
1994 年 東京大学大学院理学系研究科・助教授 (併任ー1999 年まで)
1999 年 京都大学大学院理学研究科・附属天文台・教授
2004 年 京都大学大学院理学研究科・附属天文台長 (併任)
2009 年 京都大学宇宙総合学研究ユニット長 (兼任)
現在に至る

主な受賞歴

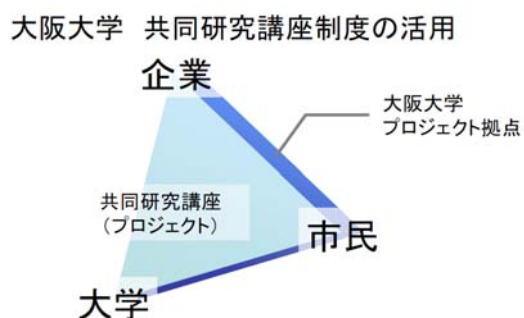
日本天文学会 林忠四郎賞 (2001 年)

かねまつ やすお
○兼松 泰男 (51 歳) 大阪大学先端科学イノベーションセンター 教授
大学を核としたイノベーションコアの形成による研究成果の活用と若手人材の活躍の場の創出

兼松教授は、大学を拠点としたイノベーションコアを形成することを目指して、大阪大学を中心に、学内の産学連携に積極的な研究者と広く連携し、学部横断的な産学協働の体制づくりに非常に早い時期から取り組んでいます。

最近では、より実践的な産学共同研究体の枠組みとして他大学に先駆けて設計した共同研究講座制度を活用し、また、その萌芽となる研究開発プロジェクトを複数立ち上げています。これら共同研究部門やプロジェクトは、産業化を目指した共同研究だけでなく、環境浄化や地域社会貢献へと発展しており、研究成果の活用や若手人材の活躍の場の創出につながっています。

このような先駆的な活動は、他の多くの大学での産学連携の取組に影響を与え続け、一つの先導的モデルとされています。



猪名川・藻川プロジェクト

<個別取材などのお問合せ先>

かねまつ やすお
兼松 泰男

大阪大学先端科学イノベーションセンター

TEL : 06-6879-7755

FAX : 06-6879-7878

E-mail : kanematu@casi.osaka-u.ac.jp

経歴

生年月日 1958 年 12 月 21 日（51 歳）

略 歴

1981 年 信州大学理学部卒業
1985 年 大阪市立大学大学院工学研究科修士課程修了
1989 年 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了
1989 年 日本学術振興会特別研究員
1990 年 大阪大学助手 理学研究科
2000 年 大阪大学助教授 ベンチャービジネスラボラトリー
2004 年 大阪大学教授 先端科学イノベーションセンター
大阪大学知的財産本部知的財産推進本部長
2008 年 大阪大学産学連携推進本部イノベーション創出部部長

えがみ みめ
○江上 美芽 (52 歳) 東京女子医科大学先端生命医科学研究所 客員教授
再生医療研究の治療実現に向けた「プロデューサー」活動の実践

再生医療の研究活動を実際の治療として実現し、更に新産業の創出に繋げるには、従来の「コーディネーター」的支援では部分的な成果しか望めません。江上教授は、研究者の立場を理解し実用化までの過程に存在する諸問題を解決できる「プロデューサー」人材こそが必要であると提唱しました。江上教授は具体的な実践として、東京女子医科大学 岡野光夫教授らが中心となって展開する「細胞シート工学」再生医療研究において、1) 研究信条



Passion for Innovation and Duty for Patients of Tomorrow を掲げて産官学の融合を図り、2) 同大先端生命医科学センター(TWIns)内に医師・研究者・企業・薬事専門家などから成る再生医療イノベーション・コミュニティを組織化し、産学連携の旗振り役を担うと共に、国際的な組織である薬事専門家協会(RAPS)日本代表として活躍されました。また、科学技術振興調整費「先端融合イノベーション創出拠点の形成」プログラムやスーパー特区活動を通じて、3) 細胞シート再生医療の標準化や資格化に向けた CSTE(Cell Sheet Tissue Engineering Center) 及び Cell Sheet Technology)を設定し、4) 国際的な講演や産業界への啓発・広報活動を行い、5) 国際共同研究及び臨床連携を促進することで、再生医療が治療として可能であること、また産業としても十分成立することを広く国内外に広めました。



経歴

生年月日 1957 年 9 月 14 日 (52 歳)

略 歴

- 1981 年 一橋大学卒業 (国際経済・開発経済専攻)
- 1981 年 三菱銀行 (総合職) 入行
- 1985 年～1996 年 シティバンク、カナダコマーシヤル銀行等の国際金融部門において国際金融工学部門ディレクター・資本市場部長職
- 1996 年 ウェルタイム・コーポレーション (代表取締役) を設立し、製薬関連企業の国際事業提携及び M&A アドバイザリー
- 1998 年～2005 年 10 月 ABN AMRO 銀行投資銀行本部 医薬・化学担当部長
その後、同銀行法人金融本部 ヘルスケア部長
ウェルタイム・コーポレーション株式会社代表取締役として、革新的バイオベンチャーの事業開発及び国際連携支援
東京女子医科大学バイオ・メディカルカリキュラム第 36 期履修同大学先端生命医科学研究所 非常勤講師
東北大学 先進医工学研究機構ストラテジー・アドバイザー
- 2006 年 東京女子医科大学先端生命医科学研究所 客員教授 (常勤)
科学技術振興調整費イノベーション創出拠点委託事業「再生医療の本格化に向けた最先端技術融合拠点」コーディネーター
- 2008 年 スーパー特区「細胞シート再生医療の実現プロジェクト」参加
東京女子医科大学先端生命医科学研究所のチーフ・メディカルイノベーションオフィサー及び、国際産学連携・知財戦略コーディネーターとして現在に至る。
専門：先端医療政策・イノベーションマネジメント、医療経済

現在兼職：東北大学 未来医工学治療開発センター 客員教授 (非常勤)
RAPS (国際薬事専門家協会) 本部理事及び RAPS ジャパン代表
日本医薬ライセンス協会 理事

<個別取材などのお問合せ先>

えがみ みめ
江上 美芽

(アシスタント 飯山かおり)

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所

TEL : 03-5367-9945 (内線 6213)

FAX : 03-3359-6046

E-mail : megami@abmes.twmu.ac.jp

○HTV プロジェクトチーム 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 有人宇宙環境利用ミ

ッション本部

とらの
虎野
こや
り
小
さ
さ
佐
々
木

よしひこ

吉彦

ゆきお

幸雄

ひろし

宏

プロジェクトマネージャー (「吉彦」の「ヨシ」は、「土」に「口」)

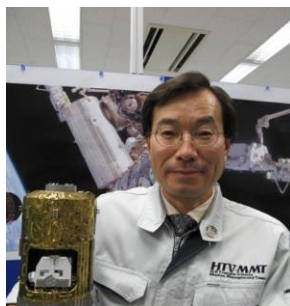
サブマネージャー

ファンクションマネージャー

高度な安全性・信頼性を満足する宇宙ステーション補給機 (HTV) の技術実証



虎野プロジェクトマネージャー



小鍵サブマネージャー



佐々木ファンクションマネージャー

宇宙ステーション補給機 (HTV) は、国際宇宙ステーション (ISS) へ水、食糧、衣料や実験装置及びメンテナンス機器などの補給物資を運ぶため日本が開発した大型無人宇宙船です。

技術実証を目的とした初号機は 2009 年 9 月 11 日深夜 2 時に、種子島宇宙センターから、新たに開発された我が国最大のロケット、H-II B によって打ち上げられ、9 月 18 日、計画通りに ISS とのドッキングに成功しました。ISS は、10 月 31 日の HTV の離脱までに、地球観測用の 2 つの大型船外実験装置を日本モジュール (きぼう) の船外実験プラットフォームにロボットアームで取り付けたり、船内用物資を ISS に運び込むとともに、ISS で発生した不要廃棄物を HTV に収納しました。離脱後は、徐々に高度を下げる軌道制御を実施し、11 月 2 日早朝に、ニュージーランド東方の大気圏に安全に再突入し、ミッションを完了しました。



HTV は、有人宇宙船と同等の極めて高度な安全性・信頼性が要求されており、今回のミッションにより、有人宇宙ステーションにランデブー・ドッキングする技術、その他の有人対応技術およびその自在な輸送能力を実証しました。また、米国スペースシャトルの退役後は船内、船外ともに大型物資を運べる唯一の宇宙船となり、各国の注目と期待を集めています。

今回の成功により、今後の宇宙活動の展開に必要な軌道間輸送機や有人宇宙船に不可欠な技術を習得したことになり、有人宇宙環境利用の更なる促進や将来の日本独自の有人宇宙開発活動に道を拓く大きな一歩を記しました。

虎野 吉彦 （「吉彦」の「ヨシ」は、「土」に「口」）

生年月日 1951 年 9 月 27 日（58 歳）

略 歴

- 1974 年 大阪府立大学（工学部 機械工学科）卒業
- 1974 年 宇宙開発事業団（現：宇宙航空研究開発機構）入社
- 1974 年 主にロケットの組立整備・打上げを担当
- 1976 年～1983 年 打上管制部及び種子島宇宙センターに所属し、N-I ロケット及びN-II ロケット（合計 9 機）の打上げ総指揮者（LCDR）
- 1985 年 H-I ロケットの開発、プロジェクト管理を担当
- 1992 年 種子島宇宙センター機械課長（ロケット・衛星担当主任開発部員）
- 1996 年 H-IIA ロケット打上げ施設設備の開発とりまとめ主任開発部員
- 2000 年 小型ロケットプロジェクトマネージャー
- 2004 年 H-IIA ロケットの Return to Flight (RTF) のため、H-IIA プロジェクトサブマネージャー
- 2005 年 RTF 打上げ成功後より HTV プロジェクトマネージャー（現職）

<個別取材などのお問合せ先>

とらの よしひこ
虎野 吉彦

HTV プロジェクトチーム

宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

有人宇宙環境利用ミッション本部

TEL : 050-3362-4124

FAX : 029-868-3950

E-mail : torano.yoshihiko@jaxa.jp

小鍬 幸雄

生年月日 1952 年 11 月 17 日 (57 歳)

略 歴

- 1975 年 東京大学工学部航空学科卒業
- 1980 年 東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程修了 (工博)
同年 埼玉大学非常勤講師
- 1981 年 宇宙開発事業団入社
主に液体酸素／液体水素ロケットエンジンの開発に従事
- 1985 年 NASA エイムス研究所研究員
- 1993 年 宇宙開発事業団角田ロケット開発センター試験設備室長
- 1994 年 (同) 宇宙ステーショングループ主任開発部員
- 2003 年 (財)宇宙環境利用推進センター宇宙実験推進部長
同年 宇宙開発事業団セントリフュージプロジェクトチームサブマネージャー
- 2005 年 宇宙航空研究開発機構 HTV プロジェクトチームサブマネージャー

<個別取材などのお問合せ先>

こやり ゆきお
小鍬 幸雄

HTV プロジェクトチーム

宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

有人宇宙環境利用ミッション本部

TEL : 050-3362-5805

FAX : 029-868-3950

E-mail : koyari.yukio@jaxa.jp

佐々木 宏

生年月日 1962 年 11 月 12 日 (47 歳)

略 歴

1987 年 東京大学大学院工学系研究科航空学専攻修士課程修了

1987 年 宇宙開発事業団入社

主に HOPE の研究、LE-7 エンジンの開発に従事

2002 年 宇宙開発事業団 HTV プロジェクトチームサブマネージャー

2005 年 宇宙航空研究開発機構 HTV プロジェクトチームファンクションマネージャー

<個別取材などのお問合せ先>

^{さ さ き ひろし}
佐々木 宏

HTV プロジェクトチーム

宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

有人宇宙環境利用ミッション本部

TEL : 050-3362-5724

FAX : 029-868-3950

E-mail : sasaki.hiroshi@jaxa.jp

○有賀 早苗 (52 歳) 北海道大学 副理事・女性研究者支援室長
北海道大学大学院農学研究院/生命科学院環境分子生
物科学研究室 教授

女性研究者活躍に向けた環境整備と女性研究者採用の促進



有賀教授は北海道大学を拠点に、自らの研究教育活動の傍ら女性研究者支援に精力的に取り組んで来られました。同大学が平成18年度に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択された課題を主導、2020年までに女性研究者比率 20%を目指す「Triple Twenties 計画」を掲げ、部局

の人件費負担軽減により女性研究者を無理なく着実に増員する「ポジティブアクション北大方式」などユニークな支援プランに溢れた取組は「モデル事業」として全国の大学等研究機関だけでなく米国国立科学財団等からも注目されています。

女子中高生の理系進路選択支援として北大生・院生達と共に全道を回る出前実験イベント「理系応援キャラバン隊シリーズ」も展開、女性研究者支援の視点を活かして男女を問わず若手研究人材の育成に努めてきています。2008 年 9



月には七大学
男女共同参
画・女性研究者

支援部門合同シンポジウムの企画・運営にも尽力、北大・東大はじめ旧七帝大の総長が揃って男女共同参画社会の実現に向けた『共同宣言』を発表しました。

専門は分子生物学・生化学。北大女性研究者支援室のロゴは遺伝子の本体である DNA の複製機構をもとに考案されています。



<個別取材などのお問合せ先>

有賀 早苗

北海道大学大学院農学研究院 TEL : 011-706-3617

北海道大学女性研究者支援室 TEL : 011-706-3625

E-mail : myan@res.agr.hokudai.ac.jp

経歴

生年月日 1957 年 10 月 11 日（52 歳）

略 歴

1980 年 上智大学理工学部卒業
1982 年 上智大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
1986 年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
1986 年 東京大学医科学研究所助手
1987 年 チューリッヒ大学分子生物学研究所研究員
1990 年 北海道大学薬学部助手
1991 年 北海道大学医療技術短期大学部講師
1992 年 北海道大学医療技術短期大学部助教授
1996 年 北海道大学医療技術短期大学部教授
2003 年 北海道大学大学院農学研究科教授
2006 年 北海道大学副理事
2006 年 北海道大学女性研究者支援室長

過去の「ナイスステップな研究者」選考者一覧（2005 年～2008 年）

	研究部門		プロジェクト部門		理解増進・教育部門			
	○高柳 広 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授 骨免疫学という新規分野の創出と発展に大きく貢献 ○林崎良英 理化学研究所プロジェクトディレクター 未踏の RNA 大陸の発見 ○ヘンシュ・貴雄 理化学研究所グループディレクター 生後発達期の脳の発達の仕組みの解明と脳神経倫理学の先導		○末廣 潔 海洋研究開発機構 理事 スマトラ島沖大地震震源近傍の海底変動をハイビジョンカメラで観る ○鈴木厚人 東北大学 副学長 『地球ニュートリノ』を世界で初めて検出 ○辻井博彦 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター長 重粒子線がん治療装置 HIMAC 2500 症例達成		○秋田県立大館鳳鳴高等学校 生徒、高田典雅教諭 論理的思考力や創造性、独創性を培う理数教育の実践 ○女子高校生夏の学校企画委員会、鳥養映子企画委員長（山梨大学教授） 女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ ○野口聡一 宇宙飛行士 船外活動でリーダーを務め、青少年に夢と希望を ○茂木健一郎 SONY Computer Science Laboratory 博士 脳科学と『クオリア』			
	研究部門		プロジェクト部門		イノベーション部門		成果普及・理解増進・男女共同参画部門	
	○審良静男 大阪大学微生物病研究所教授 被引用論文数世界一 ○伊藤 清 京都大学名誉教授 数学の応用を顕彰するために創設されたガウス賞受賞 ○渡辺 貞 理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部プロジェクトリーダー スーパーコンピュータ開発の業績に対するシーモア・クレイ賞受賞 ○山中伸弥 京都大学再生医科学研究所教授 多田 高 京都大学再生医科学研究所助教授 再生医療を可能にする画期的“万能細胞”の作製 ○板垣公一 アマチュア天文家 驚異的なスピードでの超新星発見と天文学発展への貢献		○宇宙航空研究開発機構小惑星探査機「はやぶさ」チーム 代表：川口淳一郎 プログラムマネージャー 小惑星探査機『はやぶさ』の地球帰還への挑戦 ○防災科学技術研究所実大三次元震動破壊実験施設（Eーディフェンス）の開発運用チーム 代表：中島正愛 兵庫耐震工学研究センター長， 小川信行 千葉科学大学教授（元兵庫耐震工学研究センター施設整備プロジェクトリーダー） 実物大の建物を振動させる世界に類のない先進的施設の開発運用		○北野宏明 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業(SORST)北野共生システムプロジェクト総括責任者， 石黒 周 研究開発型 NPO 振興機構専務理事， 浅田 稔 大阪大学大学院工学研究科教授 オープンなイノベーションシステムの提案と展開		○川島隆太 東北大学加齢医学研究所教授 脳研究への関心を喚起 ○北原和夫 国際基督教大学教養学部教授 大隅典子 東北大学大学院・医学系研究科・創生応用医学研究センター・形態形成解析分野教授 研究者自らが行う理解増進活動・女性研究者育成支援態勢整備の促進	

過去の「ナイスステップな研究者」選考者一覧（2005 年～2008 年）

	研究部門	プロジェクト部門	地域・産学連携・イノベーション部門	人材育成部門	成果普及・理解増進部門
2007	○今堀 博 京都大学物質－細胞統合システム拠点・工学研究科分子工学専攻 教授 有機物質による人工光合成の研究でサイエンスマップ 2006 における日本シェア No.1 研究領域を牽引 ○河野友宏 東京農業大学応用生物科学部 教授 卵子だけで誕生する二母性マウス誕生の成功率を大幅に向上させ、生殖細胞機能開発研究の新しい展開の可能性を提示 ○田村浩一郎 首都大学東京理工学研究科生命科学専攻 准教授 計算機科学の分野で世界的注目度の高い解析ソフトウェア MEGA の開発	○堀内茂木 防災科学技術研究所防災システム研究センター 研究参事 東田進也 気象庁地震火山部管理課 調査官 緊急地震速報システムの開発	○山海嘉之 筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授／CYBERDYNE 株式会社 代表取締役 CEO 身体機能を拡張するロボットスーツ HAL の開発と実用化推進 ○二瓶直登 福島県農業総合センター作物園芸部畑作グループ 副主任研究員 有機肥料の有機態窒素を中心とした有効成分の解析 ○林 維毅 株式会社マルテック 代表取締役 留学生による地域とアジアを結びつけるイノベーションの推進	○小舘香椎子 日本女子大学理学部 教授 女性研究者の育成・支援 ○若山正人 九州大学大学院数理学研究院長・教授 中尾充宏 九州大学産業技術数理研究センター長・教授 産業界との連携による若手数 学研究者の育成	○長谷川善和 群馬県立自然史博物館 館長 荒俣 宏 博物学研究家・作家 サイエンスとアートの融合を実現した科学系博物館展示の企画開催

過去の「ナイスステップな研究者」選考者一覧（2005 年～2008 年）

	研究部門	プロジェクト・国際研究交流部門	人材育成・男女共同参画部門	成果普及・理解増進部門
2008	○新津洋司郎 札幌医科大学 分子標的探索講座 特任教授 肝硬変など様々な難治性疾患の治療法開発による医療への貢献 ○細野秀雄 東京工業大学 フロンティア研究センター 教授 第 3 の超伝導物質、鉄系新高温超伝導体を発見 ○三浦道子 広島大学 大学院先端物質科学研究所 教授 半導体超微細化時代に適合する技術的に卓越したトランジスタモデルの開発と国際標準化の獲得 ○山口茂弘 名古屋大学 大学院理学研究科 教授 典型元素の基礎化学を通じて高性能有機エレクトロニクス材料を創出 ○若山照彦 独立行政法人理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター ゲノム・リプログラミング研究チーム チームリーダー 凍結死体の体細胞からのクローン個体作出に成功	○日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 池田裕二郎 物質・生命科学ディビジョン長 長谷川和男 加速器ディビジョン加速器第 1 セクションリーダー 金正倫計 加速器ディビジョン加速器第 2 セクションリーダー 先端的な加速器パルス中性子源の開発 ○嶋田雅暁 長崎大学 熱帯医学研究所 教授 ケニアを拠点として感染症対策に係る国際研究交流を推進	○河野（平田）典子 日本大学 理工学部数学科 教授 男女共同参画、女性研究者支援、女子学生に対する教育活動に貢献 ○米田仁紀 電気通信大学 レーザー新世代研究センター 教授 先進的な工学系大学院教育プログラムの開発と実施における貢献	○新井紀子 国立情報学研究所 情報社会関連研究系 教授 Web を活用した情報共有サイト構築ソフトを無償公開し、新たな学校教育手法を全国的に展開。また、数学嫌いの人々等を対象に青少年・一般向けの数学入門書を多数執筆